

横浜市小学校社会科研究会

6 学年部会

研修会記録

第 3 号

令和3年 11月 10日

横浜市小学校教育研究会

会長 後藤 俊哉

横浜市小学校社会科研究会

会長 梅田 比奈子

同 学年部長 池田 翼

【提案日時】

10月 6日 (水)

提案 細水 大輝 先生 (稲荷台小)

【会 場】

オンライン研修会

司会 吉野 周一郎先生 (伊勢山小)

記録 笠井 俊充 先生 (永田台小)

『単元名』 大陸から学んだ国づくり ～心を一つに！聖武天皇と行基の一大プロジェクト～
『授業者、提案者より』

単元を見通す学習問題

この後、聖武天皇の願いはかなったのかな。

本気の学習問題

聖武天皇は、行基をよく思っていなかったのに、どうして大仏づくりの協力をお願いしたのかな。

視点① 子どもの予想と見通しを大切にした単元づくり

A 地域素材や視覚化する場面を学習内容や子どもの思考を踏まえて位置付ける。

○成果

- ・第5時の終わりに行基の井戸を紹介したことで、子どもたちは、関西からここまで歩いてきたということに驚きを覚え、行基について進んで調べてきて発表したりする姿が見られた。
- ・吹き抜け上の体育館の壁に実物大（約15m）になるように大仏の画像を映し出したことで、子どもたちは大仏に近づくにつれて見上げる経験をしたことで、大きさを実感することができていた。

B ふり返しカードを活用し、単元を見通す学習問題に立ち返ったふり返しを積み重ねる。

○成果

- ・毎時間、単元を見通す学習問題に立ち返って考える活動を取り入れたことで、子どもは「天皇中心の政治の仕組みはできたけど、庶民の暮らしは苦しいから、まだ聖徳太子の願いがかなったとは言いきれない。」などふり返ることができていた。

●課題

- ・単元を見通す学習問題に立ち返って考えた時に、「聖徳太子の願いがかなったかどうかはまだ分からない。」といったふり返しで止まっている子が何人もいたので、継続して指導していくことが大切。

視点② 本気の学習問題を追究し、社会的事象の意味に迫る授業づくり

C 単元の山場となる場面で子どもから問いが生まれる場面を設定する。

○成果

- ・聖武天皇と行基の人物年表を比較したことで、聖武天皇の行基へ否定的な態度と大仏づくりの協力依頼という矛盾から、子どもたちの言葉で本気の学習問題が成立させることができた。

D 子どものみとりから、何をどう考えるか想定しながら資料提示をする。

○成果

- ・子どもの見取りから、「全国の人々の力を集めたい」という大仏造営の意図とは結び付いていない子が多くいた。そこで、「行基が訪ねたとされる場所」を地図に表して視覚的に提示することで、全国的な広がりについて位置や空間的な視点から、比較したり総合したりして考えることができるようにした。

●課題

- ・「聖武天皇が大仏造営によって全国の人々の暮らしの安定を図ろうとしていたこと」という社会的事象に迫っていくためには、より具体的な発問を教師から準備しておくか、「大仏造営の詔」に立ち返るなど、考えを深める資料を準備しておく必要があったと考える。

『協議内容』

- ・単元を見通す学習問題に立ち返ることができる振り返りカードは、自分の立ち位置を確認しながら学習を続けていくことができると思う。
- ・単元を見通す学習問題に立ち返ることができる振り返りカードは、調べたことが学習問題に役立つときやそうではないときが子ども自身で理解できて、次の学習意欲につながる。
- ・扉を開けた瞬間の子どもの反応はどうでしたか？また実際に見せたことで、第5次に繋がったのか知りたい。

→驚きがあった。学習が難しい子どもも多いため、実物大を見せることのよさ、実感を伴った疑問、新たな気づきが生まれた。疑問がたくさん膨らみ、子どもの言葉で問題作りをしたことで意欲が高まっていった

- ・板書にその時間の流れが載っているのは、特別支援の視点で1時間の見通しをもたせている。できる子は次のことに先回りすることもできる。学校全体で取り組んでいる。

- ・スタートから子どもたち一人一人が考えを持って参加していることが驚き、その秘訣を知りたい。
→個人差はある。前時のふり返りをしっかりと書かせる。かけない子は教師が助言する。一人一人が考えを持てるように授業を終えるようにしている。

- ・「社会が好きな子が学びをつなぐ」ではなく「クラス全員で学びをつなぎたい」 そのコツを知りたい。

→日々悩んでいる細水先生が意識しているのは、恐れずにバシバシ挙手している子どもだけに任せずに教師が指名することも大切

<講師の先生より>

滝頭小学校校長 鵜飼 数夫 先生

- ・本気の学習問題の成立していた。なぜ本気になれるのかというと、「矛盾」・「ずれ」・「おかしい！」があったから。
- ・友達の見解を参考にして話す姿が学級で社会科の授業を深めることに繋がっている。「行基パワー」など、子どもなりの言葉を使っていて、本気で考えているのが分かる。
- ・その単元の年表を用意してもよい。時間の流れを常に意識することができる。空間的な広がりや地図も有効。

文責 益満 順也 (三ツ沢小学校)